

社会歯科学実習（山本龍生）

Training of Dental Sociology (Tatsuo Yamamoto)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 社会歯科学
- ③ 健康の地域差
- ④ ライフコースアプローチ
- ⑤ 健康の社会的決定要因

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ④
- ⑥

授業概要

少子・高齢化の進展、国民医療費の増大、要介護者の増加、小児におけるう蝕有病率の減少など、歯科の保健・医療・福祉・介護を取り巻く環境は劇的に変化している。こうしたなかで、歯科の保健・医療・福祉・介護に関連する社会的な課題を発見し、その要因を追求する能力と、課題を解決する手段の構築方法を実習により身につける。特に、歯科の保健・医療・福祉・介護に関する既存を用いたデータの整理、分析および統計学的検定について、統計解析ソフトを用いて実習を行う。

授業科目の学修目標

社会歯科学は歯科に関わるすべての職種が理解する必要があると、本科目では社会歯科学に関連する問題を発見し、その解決に寄与する研究方法の立案と分析をするために必要な知識・態度・技能を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 社会歯科学的な研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成するとともに、研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 社会歯科学的な解析基礎実習 24コマ
社会歯科学的な研究に必要な既存データの種類と利用方法について教授する。
- ③ 社会歯科学的な横断データ解析実習 12コマ
社会歯科学的な横断データの解析に関する基本事項および基本的手技を教授する。
- ④ 社会歯科学的な縦断データ解析実習 12コマ
社会歯科学的な縦断データの解析に関する基本事項および基本的手技を教授する。

実習担当教員 山本龍生 湊田慎也 川村和章 宋文群

教科書および参考書

SPSSによるリスク解析のための統計処理、東京図書、2004

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

統計ソフトSPSSの使用法について指導教員から説明を受け、理解をして実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し社会歯科学的な視点で研究計画の立案ができる。
- ② 社会歯科学に関連する既存データの種類と利用方法を理解し、利用することができる。
- ③ 社会歯科学に関連する横断データの分析に関する理論を理解し、実践することができる。
- ④ 社会歯科学に関連する縦断データの分析に関する理論を理解し、実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

社会歯科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。